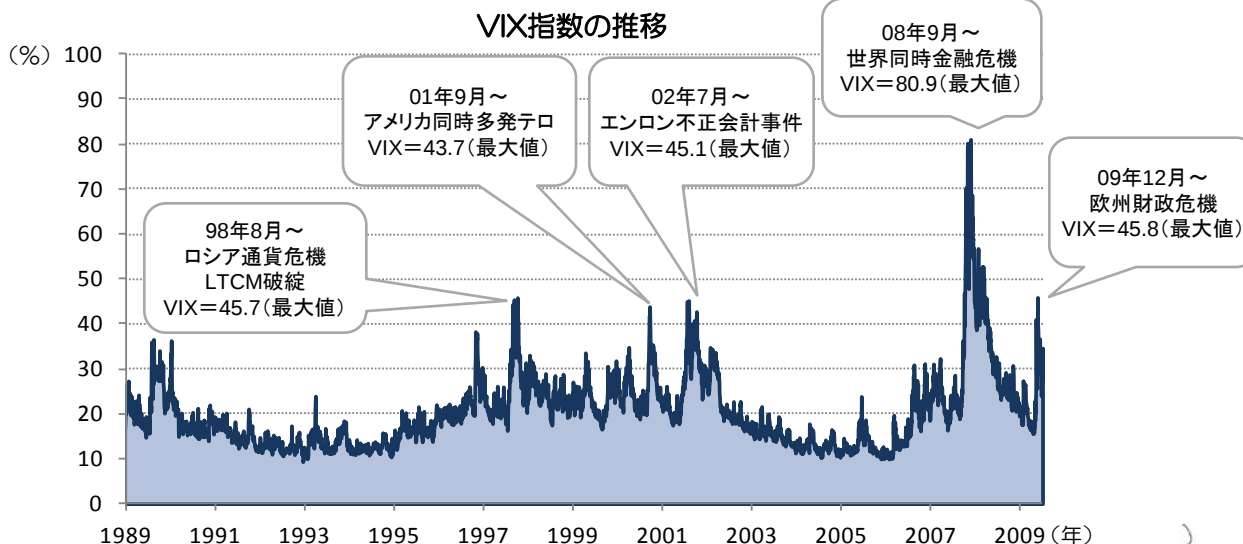


VIX指数で投資家心理を読む

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントのホームページに、VIX指数というマーケット情報が追加されました。VIXは「ボラティリティ・インデックス」の略で、米国のシカゴ・オプション取引所（CBOE）がS&P500指数のオプション取引のデータを基に算出しています。米国のデータのため、新興国とは関係ないと思われるがちですが、新興国の資産に投資している方の心理にも関係があります。

VIXは「恐怖指数」とも呼ばれており、数値が大きいほど、投資家の不安心理が大きい状況を表していると言われています。株式市場などが安定しているときは10から20の間で推移するのが一般的ですが、テロや金融危機などにより、投資家が市場の先行きに対して不安を持ち始めると、数値が大きく上昇する傾向があります。不安を感じ、リスクを減らす投資家が少なくないため、先進国の国債などに資金が流れる一方、相対的にリスクが高い新興国株式などが下落することがあります。

過去においてVIXが50を超えることはありませんでしたが、2008年金融危機時には瞬間80を超えており、如何に投資家の不安心理が高かったかが見て取れます。その後各国の財政出動や金融緩和が行われ市場が落ち着きを取り戻すと同時にVIXも低下しました。最近では5月のギリシャショックの際に上昇しましたが、現在では落ち着いた動きとなっています。VIX指数は投資家心理を計るツールの1つといえます。



VIX指数の動きをウェブサイト「グローバルマップ」でチェック www.gsam.co.jp